

令和5年度 事業計画



千葉科学大学附属高等学校

千葉科学大学附属高等学校は、国内外の若人の成長に主眼をおくとともに、「自ら考え、判断し、行動できる、自立した人材」を地域社会のみならず国内外に輩出します。



本校は、国内外の若人の成長を主眼とし、「自ら考え、判断し、行動できる、自立した人材」の輩出を第一の目標としています。

国内における著しい少子化の進行、将来的に危惧される人材の欠乏、速度を増すグローバル化の進展。こうした急速な社会状況の変化の中、高等学校における学びの在り方も時代の先を充分に見据えたものでなければなりません。

こうした背景を鑑み、本校は積極的に外国籍生徒を受け入れ、我が国の文化や伝統・習慣に慣れ親しんでもらうとともに、卒業後千葉科学大学をはじめとした関連高等教育機関ならびに日本国内の他の高等教育機関に進学させ、我が国の将来的な労働力を支える人材を育成することを目的としています。また、学園建学の理念に則し「学びの場の多様性」の必要性が叫ばれる現在、地域の学びのセーフティネットとしての役割を果たしていくことがその責務であるとの認識に立ち、通信制課程の強みを活かし生徒一人ひとりの能力・適性・興味・関心に応じたカリキュラムを提供しつつ、卒業までの生徒の学習計画を生徒個々に手作りで提供しています。

今述べた目的を達成させるため、以下に記載しているように教育・研究推進のためのグラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー、ガバナンス体制と人材育成を柱としそれぞれの目標を設定することとしました。同時に各政策における中期目標並びに具体的事業計画を立案したところです。

開校二年目を迎え、国内日本国籍を持つ生徒の入学状況はもとより、主眼としている外国籍生徒の入学状況に、未知数な部分が少なからず存在するため、単年度目標は当然のことながら、中期計画及び具体的事業計画についてもその内容の改善を継続しつつ事業の遂行に当たっていく所存です。

千葉科学大学附属高等学校 校長 太田 臣一

I. 教育・研究の推進

1. グラデュエーション・ポリシー（GP）に関する目標

本校は、生徒の多様な背景を基礎とし、個々の能力・適性・興味・関心に応じた将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させる。また、学校教育活動を通じて、外国籍の生徒は、十分な日本語能力の修得及び日本の文化や伝統、風習に慣れ親しむこと、資質・能力を育むことを目標とする。

中期計画	事業計画	
1. 本校の GP（グラデュエーション・ポリシー）を具現化するための学校自己点検・評価の実施。	【1-1-1】	・本校の GP を具現化するための生徒個々の履修状況、面談記録、既卒後の進路等を元に、生徒の希望に沿った教育が実施できているか、自己点検・評価を行う。
	【1-1-2】	・学習等連携協力施設に在籍している生徒に対し、ZOOM 等を活用し学習状況を確認するとともに、学習等連携協力施設とも、ZOOM 等を利用し情報交換を行い、生徒への語学を含めたサポートが適切に運用されているか、施設ごとの評価を行う。

2. カリキュラム・ポリシー（CP）に関する目標

本校の GP（グラデュエーション・ポリシー）を達成するため、生徒一人ひとりの能力・適正・興味・関心に応じたカリキュラムを運用することを目標とする。

中期計画	事業計画	
1. 外国籍の学生に対するカリキュラムの運用	【2-1-1】	・外国籍生徒の語学能力、基礎学力に応じた段階的な履修科目指導を行う。また、学習等連携協力施設と連携し、履修科目に応じた必要な専門的な語句等について語学力強化を行う。
2. 国内の学生に対するカリキュラムの運用	【2-2-1】	・国内の生徒の背景、将来の進路に応じた個別の履修科目指導を行う。
3. 千葉科学大学と連携した教育の推進	【2-3-1】	・将来的な千葉科学大学等の関連大学への進学を視野に入れ、広報活動、高大連携科目開設を含めた高大連携のあり方を継続し推進して行く。

3. アドミッション・ポリシー（AP）に関する目標

本校のスクール・ミッションを現実化するために、教育活動に沿って学びうる生徒像を定め、その受入を行うことを目標とする。

中期計画	事業計画	
1. 将来的に日本で就労を目指す国内外にいる外国籍の生徒の受入の推進	【3-1-1】	・将来的に日本で働くことを希望する生徒を海外から受け入れるために教育提携機関を開拓する。また、学校説明に現地に出向く等、現提携機関との連携強化を行う。
	【3-1-2】 （【1-1-2】と同様）	・学習等連携協力施設に在籍している生徒に対し、ZOOM 等を活用し学習状況を確認するとともに、学習等連携協力施設とも、ZOOM 等を利用し情報交換を行い、生徒への語学を含めたサポートが適切に運用されているか、施設ごとの評価を行う。

中期計画	事業計画	
2. 様々な事情により全日制課程に進学することが困難な生徒の受け入れ体制の構築	【3-2-1】	・地域の中学校・高等学校と生徒指導に資する連絡体制を強化し、受入生徒に対する情報共有、支援ができる体制を構築するとともに、行政・適応指導教室等との連携を推進する。
3. 学びの場の多様性を背景とした、より自己活動の時間を求める生徒の受け入れ体制の構築	【3-3-1】	・生徒一人ひとりの興味・関心に応じたカリキュラムを提供し、可能な限り個々の事情に応じた受け入れを行う。

4. ガバナンス体制と人材育成に関する目標

高等学校の質保証に資する自律的なガバナンスの充実・強化、及び将来に向け人材育成を行う。

中期計画	事業計画	
1. 本校の目的達成のためのガバナンス体制の構築	【4-1-1】	・高等学校の運営に必要な規程、細則を整備するとともに、現状を見据えた生徒担任業務、校務分掌分担を整備する。
2. 教職員の資質向上に向けた取組	【4-2-1】	・将来の高等学校運営に係る人材育成に資する研修、海外からの生徒受入に向けた研修を実施する。また、管理職による教職員個々への面談を含む教員の自己点検評価を実施する。

主な行事予定	
4月15日	前期入学式
5月24日	海外交流会
5月28日	学校説明会（1）
6月23日	千葉科学大学附属高等学校 日本語スピーチコンテスト 第3回 黒潮杯
6月24日	学校説明会（2）
7月9日	学校説明会（3）
8月6日	学校説明会（4）
8月23～29日	外国籍生徒集中スクーリング（前期）
9月2日	学校説明会（5）
9月20日	前期卒業式
10月5日	後期入学式
10月14日	学校説明会（6）
10月25～27日	修学旅行
11月23日	学校説明会（7）
12月10日	学校説明会（8）
12月15日	千葉科学大学附属高等学校 日本語スピーチコンテスト 第4回 黒潮杯
1月21日	学校説明会（9）
2月3日	学校説明会（10）
2月16～22日	外国籍生徒集中スクーリング（後期）
3月10日	後期卒業式

学生数・教職員数

■在籍学生数

（令和5年5月1日現在）

課程・学科・コース名	入学者数	収容定員	在学者数
広域通信制課程 普通科	18	400	34

（単位：人）

■教職員数

（令和5年5月1日現在）

校長	教頭	教諭	教員計	事務職員
1	1	6	8	2

（単位：人）

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和5年度 予算額	令和4年度 決算額
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	14,952	4,510
		経常費等補助金	0	0
		その他収入	541	21,757
		計	15,493	26,267
	支出	人件費	63,013	80,941
教育研究経費		14,466	4,497	
管理経費		11,040	5,716	
その他支出		0	0	
	計	88,519	91,154	
	教育活動収支差額		△ 73,026	△ 64,887
教活外	収入	受取利息等	0	0
	支出	借入金利息等	0	0
	教育活動外収支差額		0	0
	経常収支差額		△ 73,026	△ 64,887
特別	収入	資産売却差額等	0	0
	支出	資産処分差額等	0	0
	特別収支差額		0	0
	基本金組入前収支差額		△ 73,026	△ 64,887
	基本金組入額合計		△ 100	△ 800
	当年度収支差額		△ 73,126	△ 65,687

■財務改善に向けた取組

本校は、令和4年開校の高等学校であり、主として、海外の外国籍の生徒を受け入れ、千葉科学大学をはじめとする関連大学に進学し、将来的な労働力を支える人材の育成を目的としている。本年はコロナ禍の影響もあり、スクーリング等の可否も含め、状況が不透明なため、海外提携機関からの受入生徒数はかなり厳しい結果となった。また、主として展開を考えている中国においては、学年暦が9月始まり6月卒業となるため、設置計画承認がおりた、昨年8月末にはすでに進学先が決定している中での募集活動となり、中国国内からの生徒の受入が出来ない状況であった。本年は、10月の中国からの生徒受入に向け、新たな海外の教育提携機関開拓を行うとともに、現在、窓口になっている国内の日本語学校にも働きかけを強め、生徒確保を目指す。

また、国内の生徒受け入れに関しては、学びの場の多様性を受け、地域社会の学びのセーフティネットとなるよう、地域の行政、教育機関、福祉施設等との連絡・連携を密に取っていく。

■施設設備整備計画（抜粋）

完成年次を迎える令和6年度末までは新たな施設設備計画は無いが、千葉科学大学の施設と共用して利用している現存施設に関し、必要に応じて、経年劣化による修繕、部品交換等を行っていく予定である。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
該当なし	

主な装置・設備関係

(単位：千円)

事業名	金額
該当なし	